

小学校のキャンプや臨海学習、中学校の登山など、自然と触れ合う中で集団行動の大切さを学ぶ7月。これらの活動を通して学級の成長をしっかりと見とどけたいものです。また、1学期に学級で行ってきた活動を振り返り、互いのよさやがんばりを認め合ったり、課題を明らかにしたりすることにより、2学期からの取組の見通しをもって夏休みを迎えられるようにしたいものです。



<小学校>

学級づくりをキャリア教育の視点から見ると

子どもが感じている「困難さ」に
寄り添う学級づくり
～大切にしたい教師の気付き・姿勢～

◇ 困っているのは誰?～教師の気付きが大切～

「このクラスの子どもたちは、集中力がないなあ。どう指導したらいいのか分からない」とA先生は思っています。授業の始まりは多くの子どもが集中しているのですが、「聞く」時間が長くなると、手遊びが始まるようです。

困っているのは誰でしょう? 例えば、授業を録音し見返してみると、子どもの気持ちに気付くことができるのではないのでしょうか。



◇ 子どもの方から、「困った」と言ってくる?
～子どもの声に耳を傾ける教師の姿勢が大切～

子どもたちの「分からない」「困った」という声に耳を傾けていますか? 教師のその姿勢が、安心して意思表示をし合える学級を育てます。

自己有用感を高める係活動

係活動が停滞し、活動への意欲を失っている子どもはいないでしょうか。

そのような子どものために、次のような時間を設けてみませんか。

- ◇自分の係の活動状況を振り返る。
- ◇各係の活動状況を発表し合い、活動内容・方法について友だちからの意見を求める。
- ◇友だちからの意見、自分の考えを生かして、クラスに役立ち、みんなに喜んでもらえる活動内容・方法を考えて発表し、実践につなげる。

実践につなげた子どもの姿に気付いたら、その日の帰りの会等でクラスみんなで認め合えるといいですね。



※児童が自分の役割を果たしたり、自分の発想を生かした創意工夫ある活動を見出したりすることは、キャリア教育における「自己理解・自己管理能力」の育成につながります。

<中学校>

学級づくりをキャリア教育の視点から見ると

夏休み明けの自分をイメージ!

学習や部活動など、夏休みの生活を充実させるためには、目標と見通しをもたせることが大切です。休み明けに目指す姿をイメージさせて、夏休みの取組を具体的に考えさせましょう。

◇ワークシートの活用で目標と手段を明確に!

休み明けに目指す姿	そのために…
(例) シュート率70%	⇒ 毎日100本練習

「目指す自分の姿」は目標のこと。
「そのために…」は目標達成のための手段。

夏休みという限られた期間だからこそ、**「プラス10%程度の努力」**で達成できるような目標設定と、そのための取組を明確にさせましょう。



◇ショート面接で目標の共有を!

ワークシートに記入した内容について、短時間の個別面接をしてみませんか。教師と生徒で目標を共有!夏休み明けの成果が楽しみです。

学級の課題に気付き、
解決につなげる学級会の工夫

4月に考えた学級目標の達成状況はどうでしょうか。1学期の学級の取組を振り返り、成果と課題を明らかにして2学期の取組を構想するワークショップ型の学級会をしてみませんか。

- ◇学級目標に照らして1学期の学級の取組を振り返り、成果と課題につながる具体的な姿を2色の付箋に個々が書き出す。
- ◇各班に1枚ずつ模造紙を用意し、その真ん中に学級目標を書き、班で意見交換しながら付箋を貼り、共通するものをまとめる。
- ◇各班の模造紙を見合い、共通の成果と課題を明らかにする。
- ◇年間行事計画表で2学期の行事等を確認し、どの場面でのような取組をすることが課題解決につながりそうか、個々に考えた後に学級全体で話し合い、取組のめあてを決める。

※生徒が学級の課題を発見・分析し、解決に向けた適切な計画を立てることは、キャリア教育における「課題対応能力」の育成につながります。